



北海道 造形教育 連盟報



子どもたちに 日常がもどることを願って

北海道造形教育連盟

会長 森長弘美

(札幌市立宮の森中学校長)

今年度、再再任という形で、北海道造形教育連盟会長を仰せつかりました、札幌市立宮の森中学校の森長弘美でございます。本来であれば4月の委員総会で、各議案と共にご承認をいただくところでしたが、ご存知の通り、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員総会を中止とし、書面による審議を以ってご承認をいただいた次第です。

また、今年度は本連盟の創立70周年にあたり、委員総会と併せて「祝う会」を催し、この10年の活動を振り返る映像の上映や、顧問の先生方による座談会なども企画しておりましたが、今後の状況が見えない中では「祝う会」の開催を断念せざるを得ないと考えました。年末にはお配りする予定であった「記念誌」の編集作業も現在中断しておりますので、今後は、

次年度4月発行を目指してまいります。

さて、4月から、小学校で新学習指導要領が全面実施となりました。しかし、新学期が始まって一週間ほどで学校は休校となり、授業の準備をされてきた先生方には、1か月半の間、子どもたちと向き合っただけの授業が始められないもどかしさを感じた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

6月、長い休校が明けて子どもたちが学校に戻って来れました。子どもたちは図工や美術が大好きです。今はまだ感染症の終息は見えませんが、再開した授業では、教育課程の見直しを図りながら、新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して進んでいきたいと思います。そして、今こそ、図工・美術を通して子どもたちの心を開き、一日も早

く日常が戻るよう、のびのびと自分を表現することを支えていきましょう。

この感染拡大防止の動きを受けて、7月28日に開催予定であった、「第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会」も中止が決まりました。これまで準備を進めてくださっていた函館市美術教育研究会、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会の皆様には大変申し訳なく思っております。

さらに、北海道教育美術展についても、審査や展示などの際の安全な環境の確保に不安があり、先が見通せない状況の中での作品募集は混乱を招くことになり兼ねないという懸念から、今年度は中止といたします。

この一年は、限られた範囲での活動となりますが、北海道造形教育連盟は、各地区サークルや他の機関との連携を図りながら、北海道の造形教育に資するよう、情報発信などを通して活動を進めてまいりますので、ご理解とご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

<<< 令和2年度 北海道造形教育連盟役員・本部事務局 >>>

○会長	森長 弘美 (札幌市立宮の森中学校長)	○事務局次長	平井 歩 (札幌市立月寒中学校教頭)
○副会長	谷口 光伸 (乙部町立乙部小学校長)	○事務局次長	湯浅 大吾 (札幌市立鴻城小学校)
○副会長	佐藤 正行 (札幌市立西岡南小学校長)	○事務局次長	池田 武彦 (札幌市立南白石小学校)
○副会長	服部 和樹 (豊頃町立豊頃中学校長)	○庶務部長	森 久根 (札幌市立西野小学校)
○副会長	山口 浩 (恵庭市立柏小学校長)	○庶務部副部長	美香 (札幌市立真栄小学校)
○副会長	吉中 博道 (美瑛町立美馬牛小学校長)	○広報部長	黒川 友理 (札幌市立栄西小学校)
○会計監査	木村 麻岐 (函館市立五稜郭中学校)	○広報部副部長	篠原 貴 (札幌市立桑園小学校)
○会計監査	福島 祥郎 (札幌市立あやめ野中学校長)	○広報部副部長	小林 知広 (札幌市立手稲山小学校)
○会計長	福島由紀子 (札幌市立大倉山小学校教頭)	○研究部長	中村 珠世 (北海道教育大学附属札幌小学校)
○会計次長	櫻田 悟 (札幌市立盤溪小学校教頭)	○研究部副部長	菊地 惟史 (札幌市立円山小学校)
○事務局長	東 尚典 (札幌市立福住小学校長)	○研究部副部長	渡邊 千晴 (札幌市立中沼小学校)
○事務局次長	堀口 基一 (北海道教育大学附属札幌小学校副校長)	○研究部副部長	館内 徹 (札幌市立西岡中学校)
○事務局次長	寺田 実 (札幌市立札幌中学校教頭)	○研究部副部長	石川 早苗 (札幌市立啓明中学校)
○事務局次長	八田 博之 (札幌市立光陽小学校教頭)		



新たな北海道の つながりを求めて

北海道造形教育連盟

研究部長 中村 珠 世
(北海道教育大学附属札幌小学校)

新型コロナウイルス感染症拡大防止により全国の学校が約2か月以上にわたって臨時休業となりました。今年度予定されていた様々な研究会・研修会の中止という知らせも相次ぎ、残念ながら7月に開催予定であった「第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会」も中止となりました。これまで準備をしてこられた道南ブロックの各サークルおよび大会実行委員の皆様のご努力やご苦勞を想うと、仕方がないこととはいえ、とても歯がゆく残念でなりません。

勿論、それは私をはじめ、毎年全道大会に集い、ともに造形教育に携わる仲間同士がつながり合うことを楽しみにしていた全道各地の先生方にとっても同様であろうと思います。

これまで当たり前のようにあると思っていたつながりは、状況次第でいともたやすく途切れるものなだと寂しく感じる一方で、私たちはいろいろな人とのつながりの中で生かされ、それが私らしく生きることにつながっているのだと改めて強く感じます。

私事になりますが、この臨時休業中に専科として受け持っている子どもたちとオンラインで図工の学習を行うことになりました。他教科で行っていた学習の様子を参考にしながら、図工だったらどんなことがどのようにできるかな…

と考え実践してみました。そうして気付いたのは、“教材”はいくつも思い浮かぶけれど、“授業”にしていくのは思いのほか難しいということでした。機器の操作に慣れない難しさもありますが、これまで図工の授業の中で大切にしてきた、子ども同士の自然な関わり（つながり）をなかなかつけないことが何よりも難しく感じたのです。オンラインの学習においても小集団の交流を位置づけることなどはできますが、隣の席の友達と何気なくやり取りをする中で次に向かう手がかりを得て表現に向かっていくというような、学校で当たり前に行ってきた授業の形態をそのまま当てはめようとするのはそぐわないのでしょうか。恥ずかしながら、実際にやってみることで気付いた次第です。

とはいえ、オンラインで授業をおこなってよかったと感じることも多くありました。画面越しではあるけれど、友達や先生とつながり、友達が取り組んだ作品を見て「そういうアイデアもあるのか～！それなら…」と発想を膨らませるなど、感じたことや思ったこ

とをやり取りするのは子どもたちにとっても、教師にとっても楽しく、何より安心感につながるものでした。

この経験から、大切なのはこの先どのような状況になっても、つながりを切ることなく、その時にできるつながり方を模索していくこと。そして、つながりの中で自分らしさを大事にしていくことなのだと感じました。

北海道造形教育連盟研究部としても年2回のネットワーク会議や全道大会などで直接集まることは難しい状況にありますが、今年度はオンラインによる交流を中心に、新たなつながりを模索していきます。これは昨年度の道北ブロックの先生方の取組が基になっています。距離が遠く離れていて、直接会うのは難しい状況であっても、オンラインで行うことによって私たちはつながり合うことができます。そして、オンラインであることのよさを生かし、年2回に限らず、いろいろな方が参加し情報交流できる機会をつくっていきたいと考えています。

新たな学習指導要領、新たな教科書、そして「新しい生活様式」下における日々の授業など、図工・美術に関わる悩みや工夫をはじめ、これからの時代に向けての夢などいろいろなことを交流し、実現できたらと思います。北海道各地の皆様と新しいつながりが生まれることを楽しみにしています。

北海道造形教育連盟の研究主題はこちら

http://hokuzou.kir.jp/research_subject.html



昨年度までの全道大会の資料はこちらから

<http://hokuzou.kir.jp/taikai61-70.html>





第70回全道造形教育研究大会～函館・渡島・檜山からのご挨拶

第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会

実行委員長 仲井靖典
(函館市立本通中学校長)

7月28日に開催が予定されておりましたが、第70回全道造形教育研究大会函館・渡島・檜山大会ですが、過日、正式に開催中止が決定いたしました。皆様と造形教育を熱く語り合うべく、「是非、函館へ！」と強くお誘いしたいところではありましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対応によりそれが実現できず、心底残念ですし、切なさを感じています。

今 回の大会に向けて、函館市美術教育研究会・渡島美術教育研究会・檜山造形教育研究会の三団体が協力して実行委員会を立ち上げ、一昨年度から少しずつ準備してまいりました。そして【大会テーマ：美の開拓力～未来はぐくむ造形教育～】の下、図工・美術科による「力強い学び」と、造形教育と関わりのある機関との「つながり」を生かした教育活動の可能性を模索した

いと願い、それぞれの担当の先生方で計画的に準備をすすめてきたところです。

鑑 賞学習支援ツール（道南版アート・カード）の作成をきっかけに、道立函館美術館と道南の教育関係者とが連携する機会がこれまで以上に多くなり、以来、「協働」の意識が高まってきています。とりわけ、「道産子追憶の巻」（岩橋英遠：作）の実物を展示する特別展を、第70回全道造形教育研究大会に日程を合わせて企画してくださいました。これは、道教委で作成したアートパネルの鑑賞授業とリンクさせ、アートパネルの鑑賞授業を経験した子どもたちが「本物と出会って心を震わす瞬間を見届ける授業」を作りたいという、我々教師と美術館の方々との願いが重なり合って実現するはずだった、3年以上の準備期間を要した夢のよ

うな企画でした。また、公開授業については、広域であり、輸送手段等さまざまな壁はありましたが、渡島管内の学校からの提供も企画しておりました。

今回の函館・渡島・檜山大会は幻の大会となってしまいましたが、これまでの準備で培った我々自身の学びと、各サークルおよび関係機関とのつながり（人と人とのつながり）を大切な財産とし、今後につなげていければと思っています。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、これまで大会実現のためにご協力をいただきました各関係機関の皆様、公開授業や提言の準備を進めてくださいました先生方、そして大会参加を楽しみにしてくださいました多くの皆様から感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第47回 北海道教育美術展 開催中止のお知らせ

例年全道から作品を募集し、12月に審査研修会を行っておりました北海道教育美術展ですが、今年度の開催について第1回常任委員会で検討し、「今年度は中止」といたしますことのお知らせいたします。

- ① 新型コロナウイルス感染防止対応により、12月末の審査研修会開催が難しい状況が想定される。
- ② 同じく、1月の展覧会についても、開催が難しい状況が想定される。
- ③ 長期の休業による教育課程の見直しの中で、図画工作科・美術科の時数削減等により、制作の時数が削減され応募作品点数の減少が見込まれる。

以上のような点を踏まえ総合的に検討した結果、募集要項を発送する前に中止という判断をいたしました。

毎年、本美術展を楽しみにされていた子どもたち、教職員、関係者の皆様にとって大変残念なお知らせとなりましたが、このような状況が一刻も早く改善され、次年度は例年通り開催ができますことを願っております。



地区サークル紹介

各地区サークルの活動をホームページで紹介しています。
<http://hokuzou.kir.jp/team-hokkaido.html>



十勝造形サークルの紹介

事務局長 村中 鉄也
(本別町立勇足中学校)

十勝造形サークルは、十勝全域から25名の教員で構成されています。平成7年の名簿では48名の大所帯でしたが、ここ20年くらいは25名前後で推移しています。2, 30年前は一泊のスケッチ旅行、先生方の作品展など行っていたと聞きます。(作品展は体裁を変え現在も有志で活動しています)

平成10年の授業数減以降、段々と活動はコンパクトになり、現在は十勝子ども大会での作品審査・展示をメインに、合同サークル研究会、研修講座の講師担当などが主な活動内容です。

十勝子ども大会の作品展では、十勝の小中学校から毎年約1500点もの応募作品があり、その中から300点あまりを選び展示しています。審査と展示を一気に行うので苦労も多いのですが、一生懸命制作された力作を沢山見ることが出来るこの大会は、サークルのみんながとても楽しみにしています。合同サークル研では、授業公開と協議の他、各校の作品を持ち寄りわいわい楽しく勉強会をします。研修講座では子どもや教師のニーズに合わせて、版画やレーザークラフトなど毎年趣向を凝らした実技講

十勝造形サークル
□会員数：25名
□小学校5名 中学校20名(管理職1名)



習を行っています。今後は2022年予定の全道造形大会(帯広・十勝大会)に向け、帯広市教育研究会・図工美術部会と連携を深め、改めて子どもたちと造形活動に向き合い、研究を進めていく予定です。

留美研の活動紹介

事務局長 小澤なつき
(留萌市立留萌小学校)

留萌地方美術教育連盟では、昨年度「人生を豊かにするワクワクあふれる造形教育」の研究主題のもと、研究授業を行いました。

小学6年生の「アミアミアミーゴ」の授業では、先生が用意した色々な種類の紙バンドに子どもたちがワクワクしながら、構想を膨らませて製作する姿が見られました。バンドが組みにくい時には、グループで助け合いながら、世界に一つだけの器を完成させることができました。ワクワクする素材と出会い、素材と触れ合うことで、特性を知り、コツをつかみながら自分の思いを形にしていけるような授業となりました。

授業の後には「作品を語る会」を行い、子どもたちの様子や指導

法等をざっくばらんに語り合いました。授業研と研修を隔年で行っていますが、「作品を語る会」は毎年行い、本研究会で大切にしている活動の一つとなっています。

7月には全道造形研究大会道北ブロックの運営としてお手伝いさせていただきました。4つの地域が協力して行う大会ということで、他地域の先生方との交流に刺激を受けながら参加することができました。題材屋台では、海に流れ着いた漂流物を会場に持ち込み、お客さんに自由な発想で制作してもらうお店を出店しました。

留萌の地域性とアートの可能性をPRできる場となりました。

会員が減少している留美研ですが、活動内容を見直し、身の丈に

留萌地方美術教育連盟
□会員数：11名
□昨年度1回の授業研究を行いました

あった、そして、少人数でアットホームな雰囲気で作品を通して子どもたちについて語る会として活動を続けていきます。



あとがき

昨年度末から予想もしていない状況が続き、会員の皆さんとの交流がいつも通りできないのがもどかしいです。今回より、より見やすい紙面を考え構成や文字などを考えてみました。いかがでしょうか。そして、こんなときこそ、チーム北海道として、一致団結し、皆様とともに研鑽を積んでいけたらと思いますので、よろしくお祈りします。

<北海道造形教育連盟 広報部> 黒川 友理・篠原 貴・小林 知 広